

青森市埋蔵文化財調査報告書 第102集

細越館遺跡

発掘調査報告書

平成 20 年度

青森市教育委員会

序

細越館遺跡は、青森市大字細越字栄山地内に所在する平安時代の集落跡および中世の城館跡であり、現在、栄山小学校の用地として利用されております。

今回の発掘調査は、平成19年11月に発生した大雨で崩落した校庭の西側斜面の法面補修工事に伴うものであります。調査の結果、焼土遺構1基・溝状遺構1条、平安時代の土師器・須恵器などが検出されております。

本書は、このたびの発掘調査成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財保護ならびに調査・研究の一助になれば幸いです。

本書の刊行にあたり、関係機関および関係各位のご理解とご協力に深く感謝いたします。

平成21年3月

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

例　　言

1. 本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字細越字栄山に所在する細越館遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書に記載される内容は、平成20年度に実施した栄山小学校敷地内における校庭法面補修工事に係る発掘調査成果をまとめたものである。
3. 本遺跡は、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号01066として登録されている。
4. 本書の執筆ならびに編集は、青森市教育委員会が行った。執筆分担は各文末に記した。
5. 出土遺物および記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。
6. 引用・参考文献は巻末にまとめた。
7. 発掘調査および報告書の作成にあたって、次の各機関・各位からご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である（敬称略・順不同）。

青森県教育庁文化財保護課、青森市都市整備部公園河川課、青森市史編さん室、青森市立栄山小学校、北林八洲晴

凡　　例

1. 挿図番号および表番号、写真図版番号は本書を通じて連続するものとし、「第〇図」、「第〇表」、「写真〇」と表記した。
2. 遺構の略称は、焼土遺構 = S N、溝状遺構 = S Dである。
3. 挿図の縮尺は各図毎に示した。また、写真図版の縮尺は統一していない。
4. 遺物実測図・遺物写真図版の縮尺は、1/2である。なお、遺物写真図版には、個々に挿図（遺物実測図）の図版番号を付してある（例：7-1=第7図1）。
5. 土層の注記は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄1993）に準拠した。
6. 図中で使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



目 次

序	
例言・凡例	
目次	
図表・写真目次	
第Ⅰ章 調査の概要.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査要項.....	1
第3節 調査方法.....	2
第4節 調査経過.....	2
第Ⅱ章 遺跡の概要.....	3
第1節 地理的・歴史的環境.....	3
第2節 基本層序.....	3
第Ⅲ章 検出遺構と出土遺物.....	6
第1節 焼土遺構.....	6
第2節 溝状遺構.....	6
第3節 遺構外出土遺物.....	7
まとめ.....	11
引用・参考文献.....	11
写真図版.....	13
報告書抄録	

図表・写真目次

挿図

第1図 遺跡の位置	
第2図 調査区の位置.....	2
第3図 周辺の遺跡.....	4
第4図 繩張り概略図および過去の調査区.....	5
第5図 グリッド設定および遺構配置図.....	7
第6図 検出遺構.....	8
第7図 出土遺物（1）.....	9
第8図 出土遺物（2）.....	10

表

第1表 周辺の遺跡.....	4
第2表 出土遺物観察一覧.....	10

写真図版

写真1 検出遺構（1）.....	14
写真2 検出遺構（2）.....	15
写真3 検出遺構（3）.....	16
写真4 検出遺構（4）.....	17
写真5 出土遺物.....	18



第1図 遺跡の位置

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成19年11月12日、大雨のため栄山小学校校庭の西側斜面が崩落したことを受け、平成20年12月より青森市都市整備部公園河川課が校庭法面補修工事を計画した。対象地が細越館遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号01066）に該当していたことから、平成20年12月2日・3日の両日、当委員会文化財課で工事に立ち会ったところ、遺構を確認したため、両課で協議のうえ、平成20年12月4日の日程で発掘調査の要否を目的に確認調査を実施した（調査面積17m²）。調査の結果、焼土遺構1基・溝状遺構1条の遺構プランを検出した。確認調査の結果を受けて、事業者と再度協議し、平成20年12月9日～12月12日の日程で発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査要項

1. 調査の目的

校庭法面補修工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域における文化財の活用に資する。

2. 遺跡名および所在地

細越館遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号 01066）

青森市大字細越字栄山

3. 発掘調査期間 平成20年12月9日～12月12日

4. 調査面積 38m²

5. 調査委託者 青森市都市整備部公園河川課

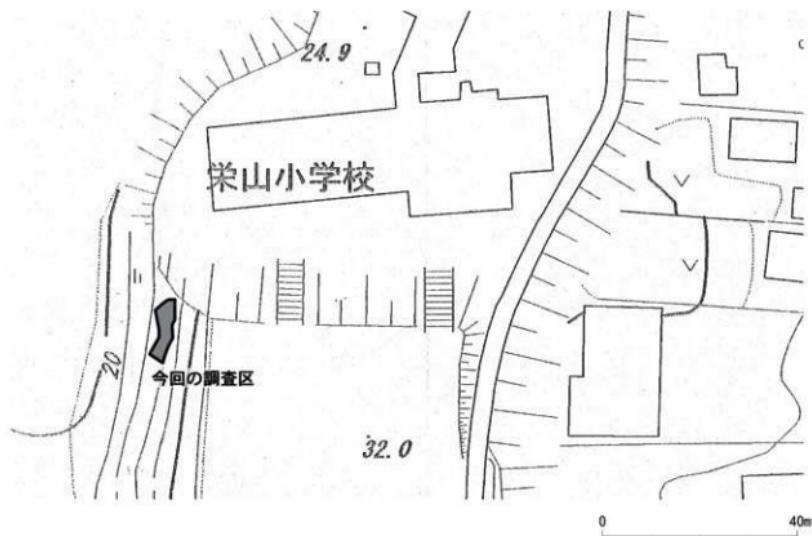
6. 調査受託者 青森市教育委員会事務局文化財課

7. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

8. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

9. 調査体制 調査事務局 青森市教育委員会

教育長	角田詮二郎	文化財主事	児玉 大成（調整担当）
教育部長	古山 善猛	〃	設楽 政健（調査担当）
次長	今村 貴宏	主事	越谷美由紀（庶務担当）
文化財監理課長	遠藤 正夫	〃	竹ヶ原亜希（〃）
主幹	藤村 和人	埋蔵文化財調査員	野坂 知広（調査担当）
文化財主査	木村 淳一	調査補助員	葛西かおり・溝江由里子・安田武実
〃	小野 貴之（調査担当）	整理作業員	工藤るり子・柴田園子



第2図 調査区の位置

第3節 調査方法

調査区は、栄山小学校校庭西側の丘陵斜面に当たり、丘陵上部の狭小な範囲に限定される（第2図）。公共座標に基づいた任意の起点から、調査区全体が網羅されるように $4 \times 4\text{ m}$ のグリッドを設定した（第5図）。グリッドの呼称は、東側に向かってアルファベット、南側に向かって算用数字を付し、両者の組み合わせで示した。測量原点は、栄山小学校敷地内にある水準点（標高25.072m）を利用した。

発掘調査は、工事工法にも留意しながら確認調査における造構確認面まで人力で慎重に表土を剥ぎ取り、確認された造構について順次精査していく方法をとった。造構精査は、4分法および任意に土層観察用のサブトレンチを設定して断面図を作成し、平面図は簡易造り方測量とトータルステーションを併用した。縮尺は原則として20分の1とし、写真は造構検出状況・土層断面・完掘状況を中心に撮影し、デジタルカメラを使用した。

第4節 調査経過

平成20年12月9日、発掘調査開始。調査区北側より人力による造構確認面までの掘削を行い、その後、鋤籠掛けにより造構確認を行った。焼土造構1基、溝状造構1条を検出し、上位の焼土造構から順に造構精査を実施した。12月12日にすべての作業を終了し、機材等を撤収した。

(小野貴之・設楽政健)

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 地理的・歴史的環境

細越館遺跡は、青森市の中心市街地から南西に約4km離れた青森市大字細越字栄山地内に所在する（第3図）。梵殊山系にまで連なる青森市西部の大駿迦丘陵縁辺部、栄山小学校敷地を包含する標高30m内外の舌状台地先端に占地しており、丘陵西側は谷地形、東側低地には水田地帯が広がる。本遺跡の立地する市西部丘陵地は、新田川・沖館川などによって開析され、微高丘陵に沢が入り組んだ地勢を呈している。

丘陵地の地質は、『土地分類基本調査』（青森県1982・1983）によると、地山は八甲田山の火山噴出物によって構成されており、「下位より、溶結凝灰岩、軽石粒堆積物、火山泥流、火山灰AおよびBに区別される」という。火山灰Aは「黄灰白色～青灰白色の凝灰岩でスコリア粒や安山岩細粒を含んでいる」ことから三内火山灰層に比定され、火山灰Bは下位の大谷火山灰層、上位の月見野火山灰層にそれぞれ比定されている。本遺跡における地山ローム層は、かかる三内火山灰層に相当する。

現在、栄山小学校の敷地全域を含む本遺跡は、かつて安田館・犠（えぞ）館とも呼ばれ、その遺跡名が示すように中世城館があったとされている。小学校校庭隅には、昭和41年（1966）5月1日の日付が刻まれた“細越館跡”的石碑がある（細越郷土研究会建立）。郭を二段並べた連郭式の平山城に分類されるとは思うが、縄張りなど城館遺構の全貌は詳らかでない（山道1980、青森県教育委員会1983、青森市史編さん委員会1989）。栄山小学校校舎建設の際、北郭の北端部と外堀の大部分が破壊されたといい、丘陵東側も宅地造成によりかなり削り取られたという。空堀によって北郭と南郭に分けられ、南郭の南端も堀切によって自然丘陵と峻別される。しかし、北郭は小学校の校舎建設・校庭造成により地形が変化しており、かつての城館遺構を窺うことは難しい。特に、昭和63年度（1988）における校庭改修工事により北郭部分は大きく削平・盛土され、北郭と南郭を分ける空堀もほとんど埋滅してしまっている。

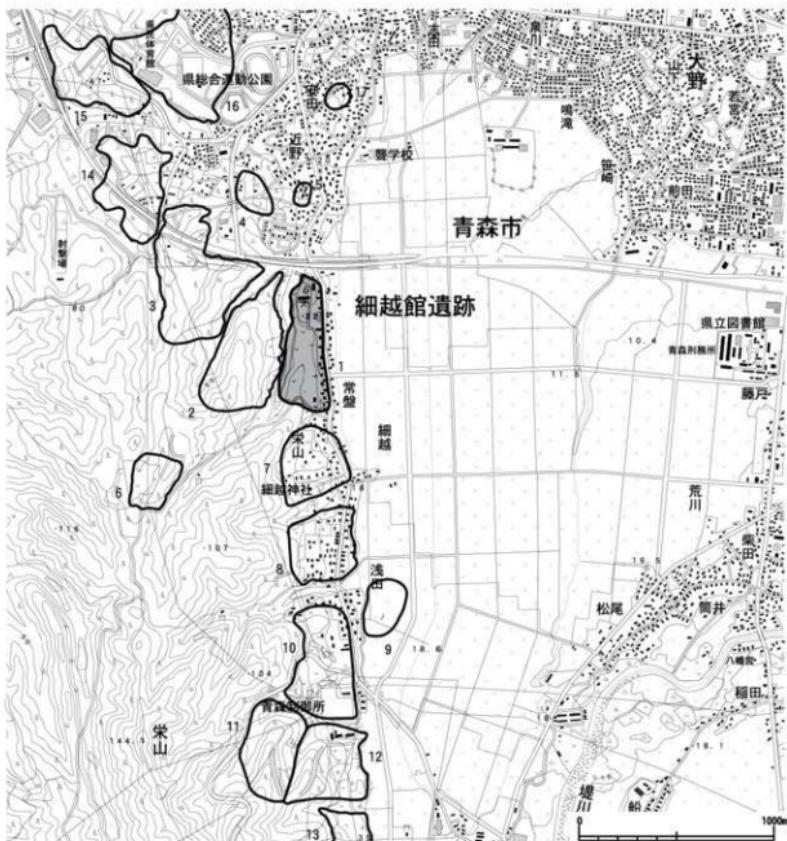
本遺跡は、これまで本格的な発掘調査が行われたことはなかったが、昭和25年（1950）頃、栄山小学校校舎建設の際に多数の焼米と古墳時代中期（5世紀後半）の古式土師器が出土している（北林1971、木村1976）。昭和57年度（1982）には、当委員会により校庭部分について一部トレンチ調査が実施されているが、報告書未刊のため詳細は不明である（第4図）。

本城館跡に関する直接的な史料はなく、館主・築城年代ともに不明である。ただし、種種の史料にはわずかながら細越館に関連したものもあり、当地が青森平野から浪岡へ抜ける鶴ヶ坂口および豆坂口の側面に位置する要衝であったことが再確認されよう。

第2節 基本層序

調査区全体が狭小であり、また工事上の制約から丘陵斜面を深く掘削することができなかつたため、基本層序は不明である。ただし、第1号焼土遺構および第1号溝状遺構については、調査区を東西に縦断するサブトレンチを設定することができたので、層序の内容については第6図を参照されたい。

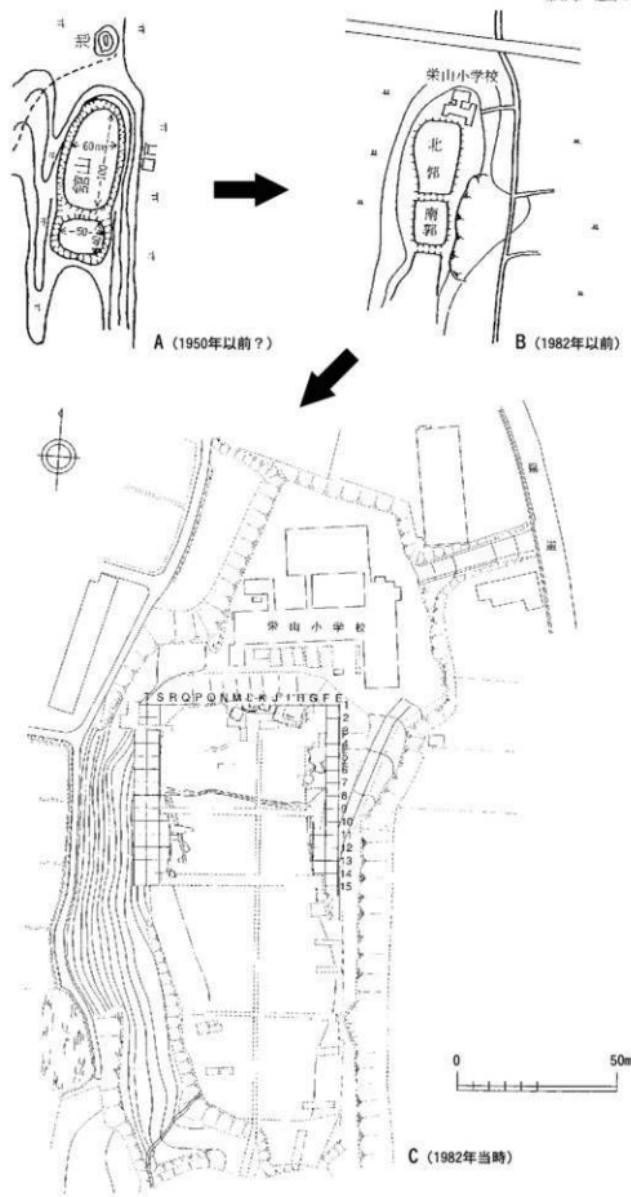
（野坂 知広）



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	文 獻
1	01066	細越館遺跡	青森市大字細越字栄山	集落跡、城郭跡	平安、中世	山道1980、青森県教育委員会1983ほか
2	01213	安田(1)遺跡	青森市大字安田字栄山	散布地	縄文(前・後)、弥生、平安	青森県教育委員会2001a、青森市教育委員会2005
3	01016	安田(2)遺跡	青森市大字安田字近野	散布地	縄文(前・後)、弥生、平安	青森県教育委員会1998a・2001b・2002d
4	01014	安田近野(1)遺跡	青森市大字安田字細森	散布地	縄文(後)	
5	01015	安田(1)遺跡	青森市大字安田字近野	散布地	縄文(後)	
6	01214	安田(1)4)遺跡	青森市大字細越字栄山	集落跡	平安	
7	01211	安田(1)遺跡	青森市大字細越字栄山	散布地	平安	
8	01212	安田(2)遺跡	青森市大字細越字栄山	散布地	縄文(前)、平安	
9	01013	細越遺跡	青森市大字細越字桜元	集落跡	縄文(後)	青森県教育委員会1979
10	01197	朝日山(2)遺跡	青森市大字高田字朝日山	散布地、集落跡	縄文、平安	青森県教育委員会1994・2001c・2002abc・2003ab
11	01198	朝日山(3)遺跡	青森市大字高田字朝日山	散布地、集落跡	縄文、平安	青森県教育委員会1995・1997a
12	01165	朝日山(1)遺跡	青森市大字高田字朝日山	集落跡	平安	青森県教育委員会1984・1993・1994
13	01222	朝日山(4)遺跡	青森市大字高田字朝日山	散布地	平安	
14	01282	三内丸山(6)遺跡	青森市大字三内丸山	散布地	縄文(中・後)、平安	青森県教育委員会1998b・2000・2001d・2002f
15	01250	三内丸山(5)遺跡	青森市大字三内丸山	散布地	縄文(中・後)、平安	青森県教育委員会1998c
16	01065	近野遺跡	青森市大字安田字近野	集落跡	縄文(中)	青森県教育委員会1974・1975・1997b・2002e、青森市教委員会2003a
17	01309	安田近野(2)遺跡	青森市大字安田字近野	散布地	縄文(前)	



第4図 繩張り概略図および過去の調査区 (A:沼館1981、B:青森県教委1983、C:木村2002より)

第III章 検出遺構と出土遺物

第1節 焼土遺構

第1号焼土遺構 (SN-01、第6図)

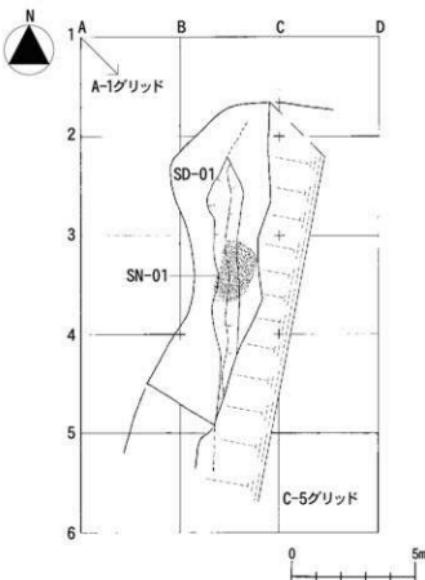
B-3グリッドに位置する。平面は不整梢円形を呈し、規模は長軸240cm×短軸133cm×深さ45cmを測る。覆土（第1～3・6・7層）上位には焼土（第2層）が層状に堆積しており、炭化材が混入していた。また、焼土下位にも数層の堆積土が観察されたが、どこまでが本遺構の覆土であるかはつきりせず、底面および断面の立ち上がりも明瞭でない。周囲のロームらしき土層は擾乱層（盛土）の可能性が高く、本来あった自然堆積が切られているだけのようにも見える。最上位の第5層は、調査区東側の校庭から続く盛土であろう。焼土層含め、本遺構の堆積層はおむね東側（丘陵内側）へ傾斜して堆積している。

覆土上位および周辺より土師器・須恵器を主体に、縄文土器も数点出土している（第7図1～14）。第7図1・2は土師器壺の底部資料であり、摩滅によりほとんど観察されないが、底部には僅かに回転系切痕が残っている。底部から胴部にかけて緩やかに立ち上がる第7図1と、高台状に急角度で立ち上がる第7図2に分けることもできよう。第7図3・4は土師器甕であり、第7図3が胴部、第7図4が口縁部資料である。ともに表面の摩滅が著しく、ナデ等の調整痕はよく見えなかったが、第7図3の外面上にはヘラケズリあるいはヘラナデの痕跡が観察された。第7図5・6はともに須恵器甕の胴部資料であり、外面上には叩き目が明瞭に観察される。第7図5の叩き目は、縄目を有する。第7図7は擦文土器の胴部資料であり、文様が薄いために拓影図では表現できていないが、鋸歯状のハケメ（擦痕）が観察される（写真5：7-7）。第7図8は鉄滓であり、製鍊滓（流动滓）に分類されるものであろう。平安集落に伴うものか中世城館に伴うものは判然としない。第7図9・10は焼成粘土塊であるが、同一個体の可能性がある。胎土にスサ（裁断されたワラ）らしき植物性繊維が多量に混入されており、外面上は土器のように平滑になっている。何らかの成形が行われたものと思われる。第7図11～14は、縄文土器の破片資料であり、文様から縄文時代前期前葉～末葉に比定される。例外なく胎土には繊維混入が観察されるが、詳細は観察表（第2表）を参照されたい。

第2節 溝状遺構

第1号溝状遺構 (SD-01、第6図)

B-2～4グリッドに位置し、南北および東側部分が調査区外にある。平面は東側に向かって僅かに蛇行する溝状を呈し、規模は現存長10.65m×現存幅1.43m×現存深度0.6mを測る。断面は下位でやや急角度に、上位で緩やかに外傾して立ち上がり、底面部分は調査区外にあるため不明である。覆土上位の黒褐色土（第20層）以下から出土遺物はなく、第20層以下を溝状遺構の覆土とするならば、本遺構からの出土遺物は皆無である。

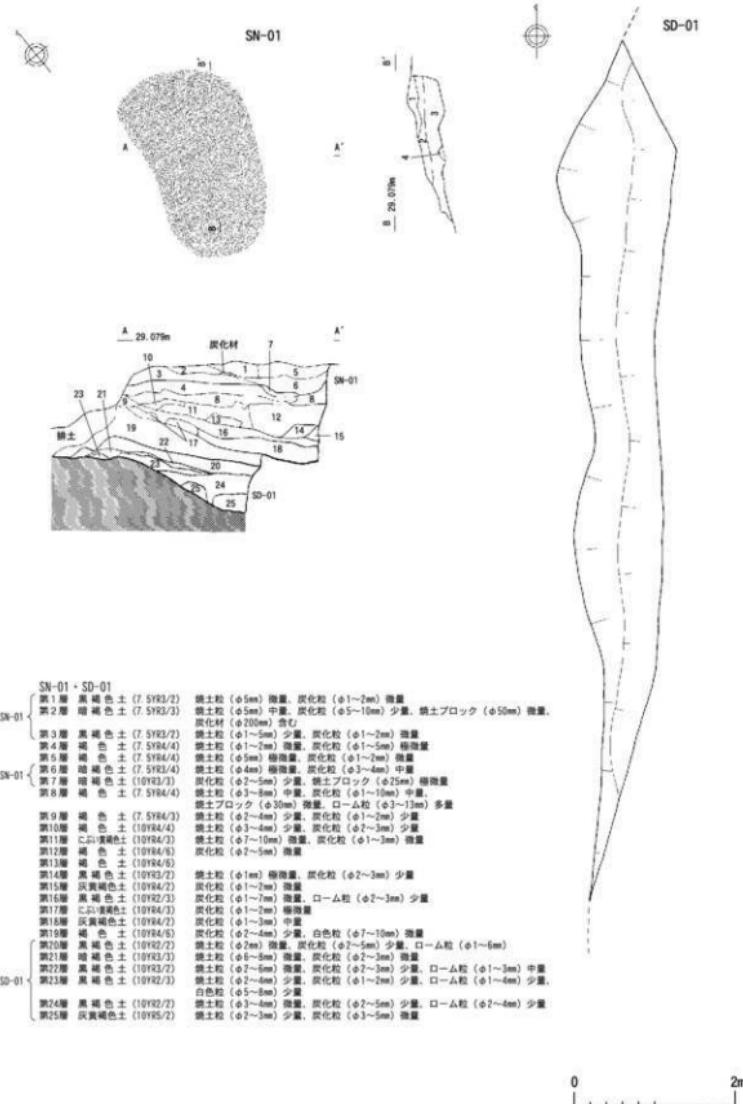


第5図 グリッド設定および遺構配置図

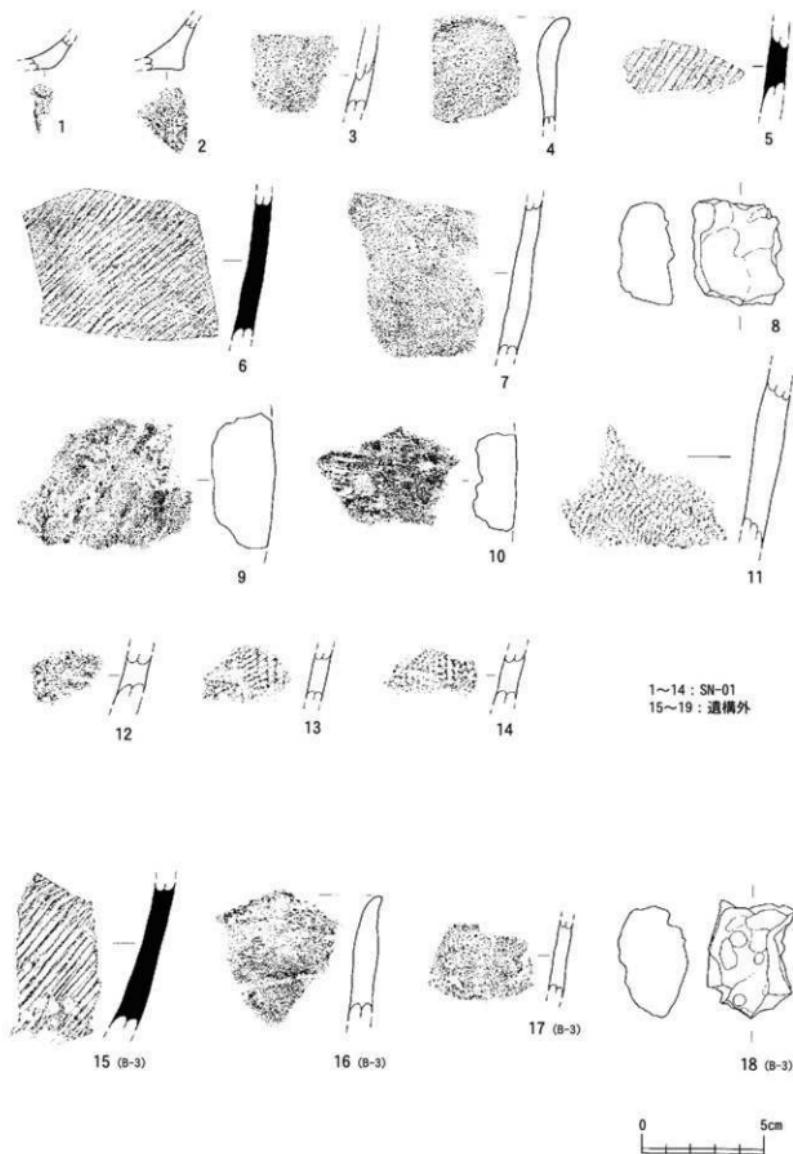
第3節 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、土師器・須恵器・鉄滓・縄文土器である（第7図15～18、第8図19）。ほとんどがSD-01上位の土層から出土している。第7図17は、土師器甕の胸部資料であり、外面には僅かにナデ調整の痕跡が観察される。第7図15・第8図19は、ともに須恵器甕の胸部資料であり、外面に叩き痕が観察される。破断面は赤褐色を呈し、胎土に海綿骨針の混入する五所川原産須恵器であろう。第8図19の叩き目には縄目が観察され、内面には輪積み痕が数段に亘って残っており、成形の過程を窺うことができる。第7図18は、鉄滓であり、鍛治滓（椀形鍛治滓）に分類されるが、古代（平安時代）のものか中世のものは不明である。第7図16は、波状口縁を呈す小型の縄文土器深鉢の口縁部資料と思われるが、表面の摩滅が著しく文様の詳細は不明である。胎土に纖維混入が観察されることから、おそらく縄文時代前期前葉～末葉の所産時期が推定される。

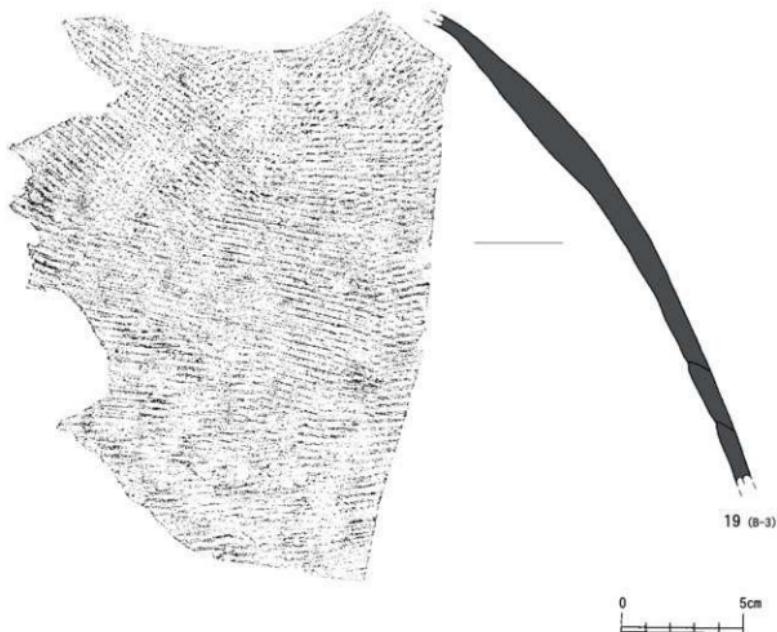
（野坂 知広）



第6図 検出遺構



第7図 出土遺物 (1)



第8図 出土遺物（2）

第2表 出土遺物観察一覧

図版番号	器種	出土位置	層位	部位	文様・調整・詳細	時期	備考
第7図1	土師器壺	SN-01	覆土上位	底部	胴部：クロコ、底部：回転糸切痕	10世紀代	
第7図2	土師器壺	SN-01	覆土上位	底部	胴部：クロコ、底部：回転糸切痕	10世紀代	
第7図3	土師器壺	SN-01	覆土上位	胴部	外面：ナデ・ケズリ、内面：ナデ	10世紀代	
第7図4	土師器壺	SN-01	覆土上位	口縁部	外面：ナデ、内面：ナデ	10世紀代	
第7図5	須恵器甕	SN-01	覆土上位	胴部	外面：印き目（網目）	10世紀代	胎土に海綿骨針
第7図6	須恵器甕	SN-01	覆土上位	胴部	外面：印き目	10世紀代	胎土に海綿骨針
第7図7	施文七器	SN-01	覆土上位	胴部	外面：ハマメ（波模様）、断面状文、内面：ナデ	10世紀代	
第7図8	跳芦	SN-01	覆土上位	—	挺純津（流動津）	不明	表面に少量の銷
第7図9	燒成粘土塊	SN-01	覆土上位	—	外面上に調質あり	不明	スサ混入
第7図10	燒成粘土塊	SN-01	覆土上位	—	外面上に調質あり	不明	スサ混入
第7図11	施文土器	SN-01	覆土上位	胴部	胴部：單輪筋条体第1類	円筒下矧式	織耕混入
第7図12	施文土器	SN-01	覆土上位	胴部	胴部：網文（詳細不明）	円筒下矧式	織耕混入
第7図13	施文土器	SN-01	覆土上位	胴部	胴部：單輪筋条体第1類	円筒下矧式	織耕混入
第7図14	施文土器	SN-01	覆土上位	胴部	胴部：單輪筋条体第1類	円筒下矧式	織耕混入
第7図15	須恵器甕	B-3	確認面下位	胴部	外面：印き目	10世紀代	胎土に海綿骨針
第7図16	施文土器	B-3	確認面下位	口縁部	外面：文様不明	円筒下矧式	織耕混入
第7図17	土師器壺	B-3	確認面下位	胴部	外面：ナデ・ケズリ、内面：ナデ	10世紀代	
第7図18	跳芦	B-3	確認面下位	—	挺純津（柳形挺純津）	不明	表面に少量の銷
第8図19	須恵器甕	B-3	確認面下位	胴部	外面：印き目（網目）、内面：輪横み痕	10世紀代	胎土に海綿骨針

ま と め

細越館遺跡は、青森市大字細越字栄山地内に所在している。今回、栄山小学校校庭法面補修工事に先立ち、平成20年12月9日～12月12日の日程で工事予定地を対象に発掘調査を実施した（調査面積38m²）。調査の結果、時期不明の焼土遺構1基・溝状遺構1条を検出したほか、ダンボール箱換算で約3分の1箱分の土師器・須恵器・鉄滓（製鍊滓・鍛治滓）・繩文土器等が出土した。

第1号焼土遺構（SN-01）は、不整棱円形の平面を呈し、炭化材を含む焼土が層状に堆積している。遺構の性格、用途・機能は判然とせず、僅かに出土遺物もあるが、その帰属時期は不明である。ただし、焼土下位の堆積土が盛土ばかりではなく、東側（丘陵斜面内側）に傾いて層状に堆積している点は強調されて然るべきであろう。とすれば、平安時代の焼成土坑のようにも思えるが、その下位より検出された溝状遺構の存在を考えると、時期不明の焼土遺構としておくのが妥当である。なお、出土遺物の主体時期は平安時代（10世紀代）である。

第1号溝状遺構（SD-01）は、出土遺物もなく、時期不明の遺構である。SN-01下位から検出されたことから、両遺構には時期差があるものと思われるが、その帰属時期は明確にできない。また、地山ローム層が丘陵斜面の内側に向かって急角度に傾斜し、落ち込んでいることを考えると、自然堆積と理解するのは難しい。ただし、これを横堀・犬走など城館遺構と認識するのも早計であろう。『細越村郷土誌』（看倉1959）には小学校校舎建設の際に「須恵器の器の破片が多数」出土し、「広い面積にわたり木炭層に被われておる」との記述があり、今回の調査結果に通ずる傾向を窺うこともできる。報告書未刊の当委員会による昭和57年度（1982）調査の資料など、断片的に残された情報を総合して再検討する必要がある。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護の趣旨をご理解いただき、発掘調査実施にあたりご協力賜った関係機関・関係各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

（担当者一同）

引用・参考文献

- 青 森 県 2003 『青森県史』資料編(考古4 中世・近世)
- 青 森 県 2005 『青森県史』資料編(考古3 弥生～古代)
- 青森県教育委員会 1974 『近野遺跡(Ⅰ)』
- 青森県教育委員会 1975 『近野遺跡(Ⅱ)』
- 青森県教育委員会 1979 『細越遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1983 『青森県の中世城館』
- 青森県教育委員会 1984 『朝日山遺跡』
- 青森県教育委員会 1993 『朝日山遺跡Ⅱ』
- 青森県教育委員会 1994 『朝日山遺跡Ⅲ』
- 青森県教育委員会 1995 『朝日山(3)遺跡』
- 青森県教育委員会 1997 a 『朝日山(3)遺跡』
- 青森県教育委員会 1997 b 『近野遺跡V』
- 青森県教育委員会 1998 『新町野・野木遺跡発掘調査報告書』

- 青森県教育委員会 1999 a 『安田(2)遺跡』
青森県教育委員会 1999 b 『三内丸山(6)遺跡I』
青森県教育委員会 1999 c 『三内丸山(5)遺跡発掘調査報告書』
青森県教育委員会 2000 『三内丸山(6)遺跡II』
青森県教育委員会 2001 a 『栄山(3)遺跡』
青森県教育委員会 2001 b 『安田(2)遺跡II』
青森県教育委員会 2001 c 『朝日山(2)遺跡』
青森県教育委員会 2001 d 『三内丸山(6)遺跡III』
青森県教育委員会 2002 a 『朝日山(2)遺跡III』
青森県教育委員会 2002 b 『朝日山(2)遺跡IV』
青森県教育委員会 2002 c 『朝日山(2)遺跡V』
青森県教育委員会 2002 d 『安田(2)遺跡III』
青森県教育委員会 2002 e 『近野遺跡VI』
青森県教育委員会 2002 f 『三内丸山(6)遺跡IV』
青森県教育委員会 2003 a 『朝日山(2)遺跡VI』
青森県教育委員会 2003 b 『朝日山(2)遺跡VII』
青森県教育委員会 2004 a 『朝日山(2)遺跡VIII』
青森県教育委員会 2004 b 『朝日山(2)遺跡IX』
青森県立郷土館 1981 『尻八館調査報告書』
青森県埋蔵文化財調査センター 1983 『埋文あおもり』第2号
青森県埋蔵文化財調査センター 1991 『北の誇り・亀ヶ岡文化』図説「ふるさと青森の歴史」シリーズ③
青森県埋蔵文化財調査センター 1993 『北の農耕文化の始まり』図説「ふるさと青森の歴史」シリーズ④
青 森 市 2005 『新青森市史』資料編2(古代・中世)
青 森 市 2006 『新青森市史』資料編1(考古)
青森市教育委員会 1987 『横内城跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会 2001 『新町野遺跡発掘調査報告書II・野木遺跡発掘調査報告書II』
青森市教育委員会 2003 『近野遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会 2005 『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会 2009 『市内遺跡発掘調査報告書17』
青森市史編さん委員会 1989 『中世の城館一細越館』『青森市の歴史』
小友 叔雄 1943 『津軽封内城趾考』 青森郷土会
北林八洲晴 1971 『津軽半島における擦文土器の新資料』『北海道考古学』第7輯
木村 淳一 2002 『青森市細越館遺跡出土の耳皿について』『青森県考古学』第13号
木村鉄次郎 1976 『青森県の土師器研究史と若干の問題』『考古風土記』第1号
看倉 弥八 1959 『細越村郷土誌』 細越公民館
沼館 愛三 1981 『津軽諸城の研究』 伊吉書院
山道 紀郎 1980 『日本城郭大系』第2巻(青森・岩手・秋田) 新人物往来社

写 真 図 版



細越館遺跡周辺の航空写真（上が北、1987年撮影）



調査風景（北→）

写真1 検出遺構（1）



SN-01確認状況（東→）



SN-01セクション①（南→）



SN-01セクション②（東→）

写真2 検出遺構（2）



SD-01確認状況 (東→)



SD-01調査状況① (南東→)



SD-01調査状況② (北西→)

写真3 検出遺構 (3)



南郭より北郭を望む（南東→）



南郭南端の堀切（西→）



西側斜面の豊堀（東→）

写真4 検出遺構（4）

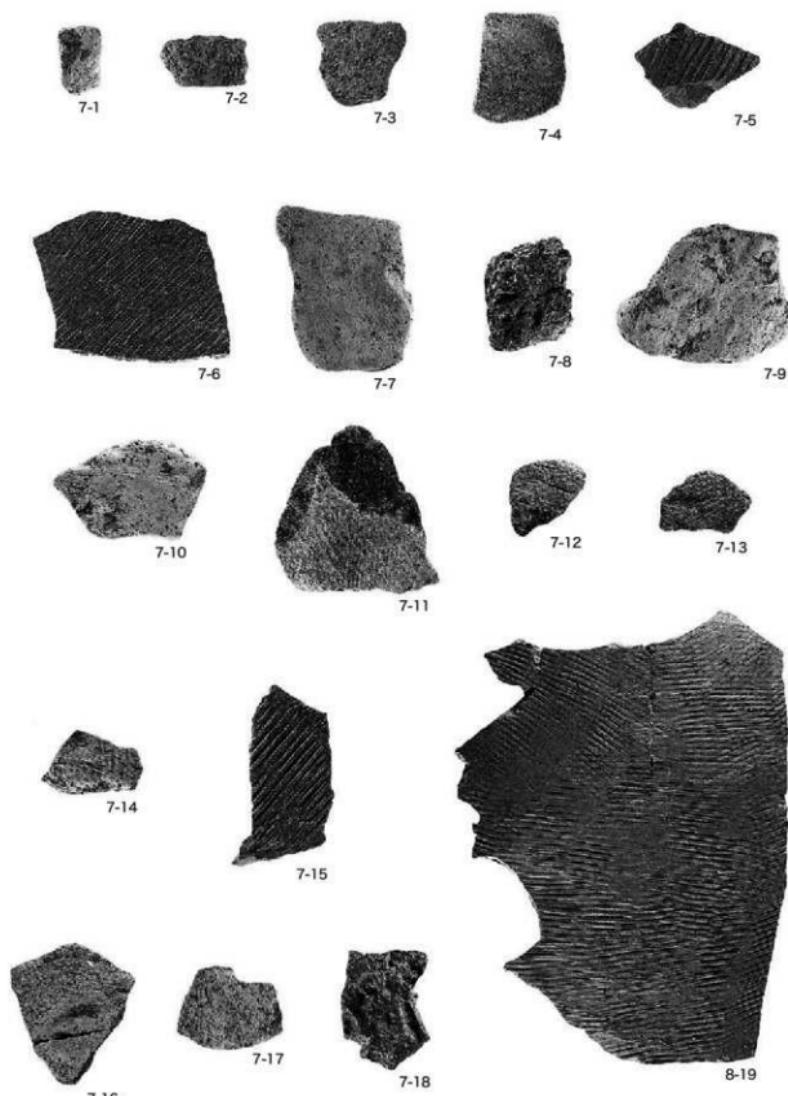


写真5 出土遺物

(S=1/2)

報告書抄録

ふりがな	ほそごえだていせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	細越館遺跡発掘調査報告書
副書名	
卷次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第102集
編著者名	設楽政健、野坂知広、小野貴之
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号 TEL017-761-4796
発行年月日	西暦2009年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系(JGD2000)		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
細越館遺跡	青森県青森市大字 細越字宋山	02201	01066	40° 46' 52"	140° 47' 22"	20081209 20081212	38m ²	校庭法面補修工事 に先立つ事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
細越館遺跡	集落跡 城館跡	平安時代 中世	焼土遺構 溝状遺構	1基 1条	土師器 須恵器 縄文土器

要約	1. 細越館遺跡は、青森平野西側の微高地陵上、標高30メートル内外の地点に位置している。 2. 発掘調査は校庭法面補修工事予定地38m ² を対象に実施した。 3. 調査の結果、時期不明の焼土遺構1基・溝状遺構1条を検出した。出土遺物の主体時期 は平安時代(10世紀代)である。
----	---

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財Ⅰ	1962	『三内丸山遺跡調査概報』	〃	第52集	2000	『大沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	2	1965 『四ツ石遺跡調査概報』	〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	3	1967 『玉清水遺跡調査概報』	〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	4	1970 『三内丸山遺跡調査概報』	〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	5	1971 『野木和道跡調査報告書』	〃	第56集	2001	『船山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	6	1971 『玉清水田遺跡発掘調査報告書』	〃	第57集	2001	『船山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	7	1971 『大浦遺跡調査報告書』	〃	第58集	2001	『大沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	8	1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』	〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
		1979 『蟹沢遺跡』	〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
		1983 『西戸桃遺跡調査報告書』	〃	第61集	2002	『大沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野神遺跡』	〃	第62集	2002	『船山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃		1985 『長森遺跡発掘調査報告書』	〃	第63集	2002	『船山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃		1986 『田茂戸遺跡発掘調査報告書』	〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃		1987 『横内城跡発掘調査報告書』	〃	第65集	2003	『雲谷山(吹)(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃		1988 『三内丸山1遺跡発掘調査報告書』	〃	第66集	2003	『船山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
青森市埋蔵文化財調査報告書			〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第16集	1991 『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992 『埋蔵文化財出土物調査報告書』	〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第18集	1993 『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃	第19集	1993 『市内遺跡発掘調査報告書』	〃	第71集	2004	『船山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第20集	1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』	〃	第72集	2004	『船山遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃	第21集	1994 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第22集	1994 『小三内丸山遺跡発掘調査報告書』	〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第23集	1994 『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	〃	第75集	2004	『江戸野遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995 『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第76集	2005	『柴山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第77集	2005	『赤坂野遺跡発掘調査報告書』
〃	第26集	1995 『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第28集	1996 『三内丸山(2)・遺跡発掘調査報告書』	〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第29集	1996 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第81集	2005	『石江野遺跡群発掘調査概報』
〃	第30集	1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』	〃	第82集	2006	『三内丸山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第32集	1997 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第33集	1997 『新町野遺跡発掘調査報告書』	〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書IX』
〃	第34集	1997 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第86集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書14』
〃	第35集	1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第36集	1998 『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』	〃	第88集	2006	『史跡高根館跡遺跡環境総報告書Ⅱ』
〃	第37集	1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』	〃	第89集	2006	『羅原遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998 『野木遺跡発掘調査報告書』	〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第91集	2007	『市内遺跡発掘調査報告書15』
〃	第40集	1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	〃	第92集	2007	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第41集	1998 『野木遺跡発掘調査概報』	〃	第93集	2007	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第42集	1998 『熊沢遺跡発掘調査概報』	〃	第94集	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』
〃	第43集	1999 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第95集	2008	『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』
〃	第44集	1999 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	〃	第96集	2008	『葛野遺跡群発掘調査報告書』
〃	第45集	1999 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』	〃	第97集	2008	『市内遺跡発掘調査報告書16』
〃	第46集	1999 『新町野・野木遺跡発掘調査概報』	〃	第98集	2008	『新町野遺跡発掘調査報告書IV』
〃	第47集	1999 『船山遺跡発掘調査概報』	〃	第99集	2009	『市内遺跡発掘調査報告書17』
〃	第48集	2000 『熊沢遺跡発掘調査報告書』	〃	第100集	2009	『阿部野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第49集	2000 『船山遺跡発掘調査概報』	〃	第101集	2009	『大沢野田遺跡発掘調査報告書II』
〃	第50集	2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書V』	〃	第102集	2009	『細越館遺跡発掘調査報告書』
〃	第51集	2000 『桜峯(1)・雲谷山(吹)(3)遺跡発掘調査報告書』	〃			

青森市埋蔵文化財調査報告書 第102集

細越館遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成21年3月31日

発 行 青森市教育委員会
〒038-8505 青森市柳川二丁目1番1号
TEL 017-761-4796

印 刷 青森オフセット印刷株式会社
〒030-0802 青森市本町二丁目11番16号
TEL 017-775-1431
